**《2022年度新設》長野晃研究会（政治哲学・政治理論・政治思想）**

**1. 長野より**

　思想や哲学の書物をせっかく買ったのに、最初の数ページで挫折してしまった、という経験をお持ちの方も多いのではないでしょうか。なぜでしょうか。中身が難しい、というだけではありません。「問い」の立て方に馴染みがない、というのが恐らくその理由です。なぜそれが問題なのかが分からないから、ということです。このような困難は差し当たり、様々な背景知識を知り、いろいろな議論の仕方に慣れていくことでしか克服できません。だからこそ、それまで何を言っているのかが全く分からなかった書物が突然分かった気になる、という体験は、他の何物にも代えがたいものです（往々にしてまた分からなくなる訳ですが、その繰り返しです）。一緒に読書し、内容についてあれこれと語り合うことで、そのような体験をみんなで共有するのは、とても楽しい時間になると思います。

政治哲学や政治思想は、政治学の特定の対象を扱う学問、という訳では必ずしもありません。具体的な選挙制度から「存在とは何か」という問いに至るまで、ありとあらゆるテーマが研究対象となり得ます（そもそも「政治とは何か」、「政治学とは何か」という問い自体が慎重な検討を要する問題です）。どんな問いであれ、掘り下げていけば必ずや哲学的・思想的になります。なので大事なのは、どうやって問いを掘り下げていけば良いのかをじっくりと考えていくことです。何か確固たる特定の方法論、というものはありません。思想家のテクストに向き合い、何とか対話を試みようとすること、それによって自らの問いを深めていき、それを再び思想家のテクストにぶつけていくこと。それが全てです。

　本研究会では、ゼミ生の興味関心に配慮しつつ、様々な書物を輪読していきたいと思います。大衆民主主義や議会制民主主義の危機と向き合った20世紀前半の思索から、全体主義という苦い経験を踏まえて展開された戦後の政治思想、そして英米の分析的政治哲学や大陸ヨーロッパの現代思想に至るまで。もちろんそれ以外も。消化不良を覚悟でたくさん「乱読」することで、皆さんの問題意識を広げていければと考えています。

**2. 研究対象**

　現代政治哲学を中心に、幅広く研究します。20世紀以降の政治哲学が中心にはなりますが、古典から新刊まで、面白いものを読んでいきたいと思います。

**3. ゼミ生の構成**

　20名以内を目安とします。

**4. 他学部生の受け入れ**

　歓迎します。事前にご連絡ください（所属学部との兼ゼミも可）。

**5. 留学から帰ってくる学部生の扱い**

　歓迎します。事前にご連絡ください。

**6. ゼミ生からのコメント**

　2022年度新設のため無し

**7. ゼミの進め方**

　ゼミは2限連続（水曜日4・5限の予定）で、1週間～2週間に一冊のペースで輪読していきます。ゼミですので、時間を気にせず、心行くまで討論しましょう。三年生には三田祭論文、四年生には卒業論文の執筆が課されます。その他、夏休み中に合宿を行う予定です（詳細は未定）。

**8. 使用文献**

　ゼミ生の皆さんの希望を基に決定します（希望した文献が必ず採用される訳ではありません）。様々な思想に触れる機会を提供したいと思っています。

**9. ホームページアドレス**

　まだ無し

**10. 連絡先**

　naganoakira0317＃gmail.com（長野）

　（＃を@に変えて送ってください）

**11. 担当教員**

長野晃（ながの・あきら）

1987年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業、

同大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学。博士（法学）

主要業績：『カール・シュミットと国家学の黄昏』（風行社、2021年）

　なお担当教員の書いたものを読んでみたい人は、差し当たり以下のリンクから。

[ポピュリズム理論家としてのカール・シュミット？ | 研究活動 | 東京財団政策研究所 (tkfd.or.jp)](https://www.tkfd.or.jp/research/detail.php?id=3485)

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

以上